

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 12年7月 ～輸出の落ち込みが鮮明に

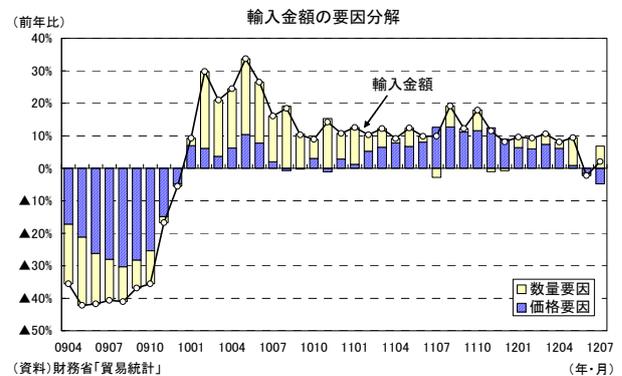
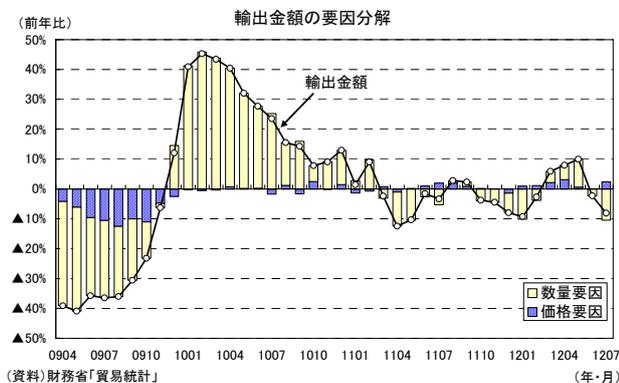
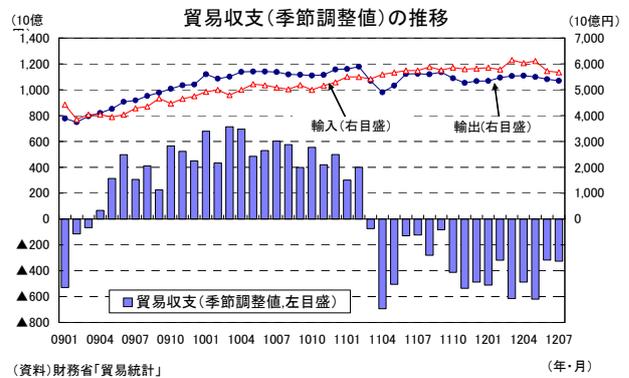
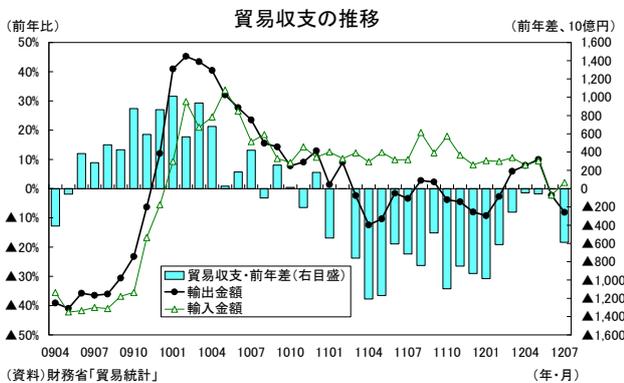
経済調査部門 経済調査室長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出の落ち込みが鮮明に

財務省が8月22日に公表した貿易統計によると、12年7月の貿易収支は▲5,174億円と2ヵ月ぶりの赤字となり、事前の市場予想（QUICK集計：▲2,775億円、当社予想は▲2,198億円）を大きく下回った。輸出の減少幅が6月の前年比▲2.3%から同▲8.1%へと大きく拡大する一方、輸入が前年比2.1%（6月：同▲2.2%）と2ヵ月ぶりの増加となったため、前年に比した貿易収支の悪化幅は前月から大きく拡大した。

季節調整値の貿易収支は▲3,257億円と17ヵ月連続の赤字となり、6月の▲3,176億円から赤字幅が拡大した。輸出（前月比▲1.1%）、輸入（前月比▲0.9%）ともに前月比で減少したが、輸出の減少幅が輸入の減少幅を若干上回った。



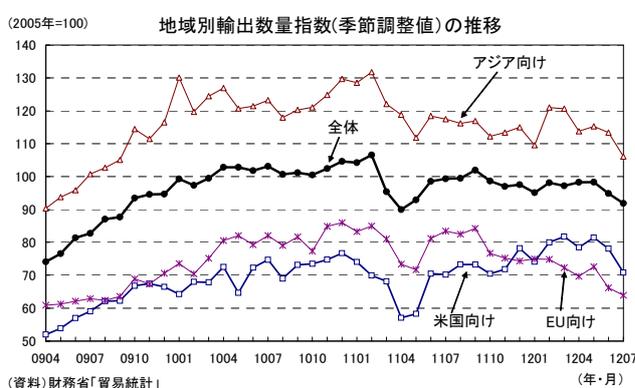
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲10.4%（6月：同▲2.3%）、輸出

価格が前年比 2.5%（6月：同 0.1%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比 7.0%（6月：同▲0.7%）、輸入価格が前年比▲4.6%（6月：同▲1.6%）であった。

2. 輸出の下振れが景気腰折れにつながりやすい状況に

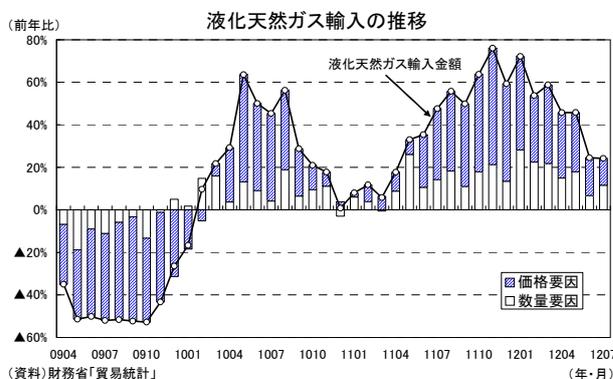
7月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 0.9%（6月：同 10.8%）、EU向けが前年比▲23.6%（6月：同▲18.6%）、アジア向けが前年比▲9.8%（6月：同▲4.2%）となった。季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比▲9.3%、EU向けが同▲3.5%、アジア向けが同▲6.4%といずれの地域向けも急激に落ち込んだ。輸出数量全体では前月比▲3.2%であった。景気後退が続く EU 向けの落ち込みが続いていることに加え、景気減速が鮮明となっているアジア向けも低調な動きとなっている。また、堅調な動きを続けてきた米国向けも 2 ヶ月連続で低下しており、輸出はここにきて牽引役を失いつつある。

6月、7月の輸出は、一定の底堅さを維持している米国などの海外経済の動きからすると弱すぎる結果であり、現時点では輸出の落ち込みがこのまま続くとは考えていない。ただし、政策効果の一巡に伴い国内需要の回復力が弱まりつつある中、輸出の下振れが景気の腰折れにつながりやすい状況となっている。輸出が 8 月以降持ち直しに向かうかが注目される。



国際商品市況が落ち着きを見せていることもあり、貿易収支悪化の大きな要因となっていた輸入の伸びは低下傾向にある。輸入価格指数は 6 月に前年比▲1.6%と 1 年 7 ヶ月ぶりに前年比でマイナスに転じた後、7 月は同▲4.6%とマイナス幅が拡大した。また、原発停止、火力発電増強に伴う燃料需要の増加などから、液化天然ガス (LNG) の輸入は数量ベースでも高い伸びを続けてきたが、そうした動きも一巡しつつある。輸入の急増が貿易赤字をもたらすという局面は終わりつつある。

一方、海外経済の減速傾向が続く中、輸出の本格回復は当面期待できない。貿易赤字は 2013 年半ば頃まで続くことが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。